

# おお大勝利

平成 24 年度山東サッカー一部報第 23 号 (1 月 12 日)

サッカー一部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 今年も山東サッカー部をよろしくお願ひします

新年明けましておめでとうございます。いよいよ平成 25 年、2013 年の幕が開けました。2000 年／2001 年に突入するとき、さまざまなデジタル機器が新世紀の年号に対応できないのではないかと、世紀末に良くないことが起こるのではないかと騒がれたのも、早 13 年／12 年前のこととなりました。さらに言うと、「とうとう、昭和の歴～史が、終わ～ああああった～」（長淵剛）という感慨とともに、平成という新年号が発表され、「なに？ 平成？ なんかしっくりこないな～」などと違和感を覚えたのも、今は昔。もう 25 年前のこととなりました（四半世紀前！）。早いものですね～。

そんな感慨は置いておきまして、今年も山東サッカー部をよろしくお願ひ致します。平成 24 年／2012 年は山東サッカー部にとって厳しい年となり、Y2 降格という悲しい結果を受け入れなければなりません。県総体、選手権、県新人でもパツとせず、戦績としてはさびしいものがありました。昨年当初も、「今年はやったるで～」という気合いに満ちておりましたが、指導者からして気持ちとやることがチグハグな、そんな一年でありました。**今年は、来年の新年号にて、胸を張れるような戦績を残したいとたくらんでおります。**応援よろしくお願ひ致します。

ただ単に戦績という点で今年期すものがあるだけではなく、試合内容（プレーの質）、ピッチ内外でのマナーにおいても、昨年を上回りたいと考えております。**試合内容（プレーの質）では、伝統の（と私が勝手に言っているところの）＜スコアの差を得点差にしない粘り強いプレー＞、そして今年特に強調したいのが＜各自がボールに積極的に関わり自分で打開するという気概をもったプレー＞を目指すこと。**現在、積極的にドリブルすること、ワンツーで打開することを奨励して、トレーニングに励んでいます。ピッチ内外のマナーにおいても、ただサッカーができる選手ではなく（といっても「できている選手」はいないのですが）、**社会に出て通用する選手、もっと広く言うと、人間として当たり前のことができる選手になることを目指し、挨拶・規律ある行動・奉仕活動<sup>1</sup>に励んでまいります。**人間教育という点か

<sup>1</sup> 昨年 8 月 11 日、「NPO 法人国境なき奉仕団チーム山形」内に結成された東日本大震災災害復興支援団にコーディネートしていただき、宮城県石巻にサッカー部でボランティアに行ってきましたが、それを題材にしたイギータこと 2 年コーサーの作文「復興の意味」が「2012 年地球にやさしい作文・活動報告コンテスト」にて入選いたしました。パチパチパチ。全国のコンテストで入選ですよ！ Web

らも、皆様の叱咤激励をお願い致します。

## 納会 賑やかに一年を納める

12月11日（火）、後期中間考査の最終日、OB 会主催の納会が行われました。場所は**ここ30年弱不動のなかじま商店**。おいしいすき焼きを頂きながら、今年一年を振り返りました。OBの方が6名も集まり、過去7年間で最も混雑した大人席となり、OBの方々の現役を支援する熱い思いが感じられる。マネージャー作成の『2012年の記録』は、(マネージャーが書く)公式戦の選評が素晴らしいのですが、2012年の戦績がイメージウイチだったので、ちょっとさびしい(勝ち残っていないので試合数も少ない)。しかし、すき焼きはおいしいし、シーズンを終えてみれば、苦しい一年の中に喜びや楽しみを見つけたくなる。何より、試合に勝った負けただけでなく、選手にとって充実した一年だったかどうか、すき焼きを頬張る笑顔にその答えを見いだしたくなる。OBの皆さま、これで一年間を納めることができました。ありがとうございました。

乾杯の前に発表されたのが、今年の優秀選手5名。以下のとおりです。

鈴木 凌	強靱なフィジカルの能力を生かして跳ね返すDF。ボール・コントロールでは見劣りするものの、前でボールを跳ね返す力と裏へ戻り走る力の両方を兼ね備えた選手。1年次は、プレーの粗さが目立ち、その決定的ミスでしばしばチームを混乱に陥れたが、2年後半からプレーに安定感が見られるようになり、3年次はヘディングの強さ、攻め上がりの積極性、左足でもボールを奪いキープする点で改善が見られ、はまったときの頼り甲斐には素晴らしいものがあつた。県総体酒田光陵戦で、なぜか最前線にいて逆転シュートを決めたのは記憶に新しい。「ケーポッパー」または「ポッパー」というあだ名も印象深い。
松永 和	小柄ながらサイドを上下動し、人一倍声を出してチームを盛り上げた山東の「ヤマトモ(長友+和)」。決して器用な選手ではなかったが、ゴール前で粘り強い選手であり、ヘディングも実は強いことは知る人ぞ知る。副キャプテンとしてチームをまとめた功績だけでなく、ピッチ上で選手を鼓舞し続け、ゲームキャプテンとして機能した点でも功績が大きい。サッカーへの厳しさとともに先輩・同輩・後輩への思いやりにもあふれており、その点では兄を遥かに凌駕する。今後は、小学校の教員を目指し、学習に次ぐ学習を重ねてほしい。
鈴木 拓也	通称ハマジ(ハマ)。顧問も彼の本名を忘れるほど、皆からその愛称で呼ばれ、まさに愛された選手。2年次の夏の苗場遠征では、学年で唯一Bチームのメンバーとなったが、明るく粘り強い性格で、腐ることなく練習に励み、その後メキメキ頭角を現し、リーグ戦にも先発出場するようになった。レギュラーでない時期にもチームの雰囲気をよくすることができる点では、カマコ(19年度卒)、ガク(20年度卒)、ヤスオ(21年度卒)、ノリタカ(22年度卒)、ゴー(23年度卒)らの正統な後継者といえる。プレーについて自分の意見をしっかり持っており、チームメートとの激論も厭わなかった。

上で作文が読めるそうなので、興味ある方は検索してみてください。

堀込 健斗	間違いなく今年のチームの中心選手。足からボールが離れないドリブルのスキルは入学当初から長所であったが、2年次からは「パスを見せながらドリブル、ドリブルを思わせてパス」という駆け引きあるプレーを習得し、また、シュートセンスも磨かれたため、本当の意味でドリブルが脅威となる選手へと成長した。左足(特に左足のアウトサイドのタッチ)でのボールキープにも秀でており、左右どのようにボールを転がしても少なくとも奪われないプレーができた。惜しむらくは、生来のお調子者の性格ゆえか、好不調の波があり、活躍しきれない試合が多かったこと。好調時のプレーは「My Best Eleven」に名を連ねる資格を優にもつ選手であった。
佐々木 翔大	なかなか思うような結果の出せない今期のチームを苦勞しつつまとめ上げた。真面目な性格で思いつめるところがあり、良くならない練習の雰囲気・試合結果に責任を感じていた。ピッチ内外の発言でキャプテンシーを見せるコウスケ(22年度卒)タイプでも、ピッチ内のプレーでキャプテンシーを見せるタダ(23年度卒)タイプでもなく、トレーニングにおいてはどんなときも手を抜かず試合にてはハートのあるプレーを見せ選手を鼓舞するような、自分の行動全体でチームを牽引する主将であった。昨年の秋の県新人後、部員全員を一度退部させやる気のある者だけ再入部させるという荒療治を行えたのも、主将の責任感の表れであった。今後は、志望校合格に向け粘り強くがんばり、勉強面でもサッカー部を牽引してほしい。

思えばこの代は、一人の退部者も出さなかったチームワーク優れた学年。結果は伴わなかったものの、センドーさんはじめワールドクラスのキャラクター<sup>2</sup>もおり、思い出は尽きません。昨年10月にユータローのお母様が急死するという非常に残念なご不幸があった際に、**(キャプテン、副キャプテンのみの参列を予定していた顧問に対して)3年生全員が参列を強く希望**し、その強い希望が管理職を動かし、全員が上山に駆け付けた、ということもありました。3年生諸君、山東サッカー部で得た思い出と友人を大切にしてい、羽ばたき給え！ サッカーでなかなか思うような結果が得られなかった借りは、今年の大学入試で絶対晴らしてくれ！！

<sup>2</sup> ちなみに、山形東サッカーOB会 HP 上にリンクが貼っておりますこれまで(今野が預かった選手で)のベストイレブンを選ぶ企画 My Best Eleven に対抗して、現在、思い出深いナイスキャラでベストイレブンを組む My Impressive Eleven を企画しております(11人の選考作業終了)。その企画のアイディア自体、センドーさんの存在に触発されたことです。FW だけチラッとお知らせしますと、センドー(山東63回卒)、ハセゲン(60回)のツートップです。

# 年始の埼玉遠征 得難い経験を得る

1月3日から5日にかけて初の年始埼玉遠征を敢行いたしました。東海大山形の五十嵐先生に紹介してもらい、埼玉県の強豪県立高校の越谷西高校さんにお世話になりました。引率は今野と、**多忙な中仕事を休んで付き合ってくれた齋藤 GK コーチ**。3日は移動日で、午後から駒場で行われた選手権2回戦「京都橘 VS 丸岡」、「帝京新潟 VS 鹿児島城西」を観戦。京都橘のFW コヤマツ君とセンドー君にビックリ（試合は京都橘が圧倒）。二試合目はレベルの高い攻防に息を飲む好試合。帝京長岡は一人ひとり噂通りうまい！ 全員が技術とアイディを持っている。鹿児島城西の2年生ボランチも技術・判断に光るものがありました。総合力で帝京長岡が上でした。

4日は午前到大宮東、庄和高校さんにお世話になり、午後越谷西さんにお相手してもらいました。いずれのチームに対しても満足な戦績は残せませんでした。山形の冬はピッチで試合できないですし、何よりレベルの高いチームと対戦できるとあって、本当にありがたい経験を積ませてもらう。5日は朝食前に照明をつけて**朝5:30から越谷西さんと試合**させてもらう。その後、午前越谷北さんにお世話になり、午後山形への帰路につきました。主将ヨシタカは、相手と比較した自チームの評として「攻守においてバイタルエリアの弱さを感じた。攻撃では、バイタルエリアからの崩しのアイディアが乏しく、ほとんどが一度サイドへ渡し、可能性の低いクロスを上げるという形だった。守備では、DFライン、GKからの指示があいまいで、自分たちで苦しい状況を作っていた」と観想に書きましたが、的確。埼玉のチーム相手に、ゴール前まで攻め込むことはできましたが、結局ゴール前で仕事させてもらえず、逆に相手には決定的な仕事を許してしまう。「自分でやる」というテーマを掲げて遠征に臨みましたが、できたことよりできなかったことの方が間違いなく多い。それだけに、とても良い刺激になりました。

特に、合宿所で合同合宿して下さった越谷西のスタッフ、選手の皆さま、ありがとうございました。できれば、また来年もよろしくお願ひします。